

## 13、子どもの話を聴くときは・・・

<資料5>

### ① 子どもの世界を教えてもらう

耳を傾け、充分聴くことで抱えている問題が分ってきて、信頼関係が作られる。  
子どもは大切なことは信頼する人にしか語らない。

### ② 聴くための十分な時間をつくる

中途半端では、悩みやつらさを口にできず、失望感やいらいらが募って逆効果。  
腰をすえてじっくり聴こう。

### ③ 話を聴くときには、あいづちを忘れない

うなづいたり、返事をしたり、相手の言ってることを繰り返したりすることで、話を聴いてもらっていると実感する。

### ④ 子どもの話を妨げない

話をさえぎったり、批判したり、まとめたりしないで、最後まで話を聴く。ことばに表せないつらさを知ってはじめて、その子の問題を理解できる。

### ⑤ 話を聴くときに、相手の目の動きに注意する

子どもは聞き手の目を見ながら話すことはあまりない。同意や承認を求める時、話を終えたい時の相手の目のサインを見落とさない。気楽な雰囲気をつくり、注意をむけてあげる。

### ⑥ 話を聴くときには、目の高さを合わせる

どうしても、目線が上から見下ろす形になるので、威圧感を与えないように、大人がひざを曲げたり、しゃがんだりして視線をあわせると、話がしやすい。

### ⑦ 声の調子を変えない

声の高さや大きさは話し手の心理的・精神的な態度を表現する。自分がイライラすると、声を大きくなり、トーンが高くなるので、相手が不安感を覚える。

### ⑧ 相手の立場に立ち、共感を持って対応する

「なぜ?」「どうして?」という言葉は、問い詰められたと感じたり、叱責されているように受け取り、話を進みにくくする。

例えば、「心配で不安だけどどうしたらよいか?」と聞かれたら、「そう、不安で心配なの?」と繰り返し、一緒に答えを考えてあげる。

### ⑨ 問題の原因を決めつけない

「地震のせいだ」「子どもの性格のせいだ」「親が悪い」などと決めつけても解決にならない。取り巻く状況を広い視野でとらえ、解決の糸口を見つける。

### ⑩ 問題を解決するのは、子ども自身である

的確な援助があれば、問題は子ども自身が解決できる。必ず乗り越えられることを伝え安心させる。